

新人ナース Diary 第5回

院内留学編

院内留学とは

自部署の一般的な疾患の治療や看護について、関係部署での関わりを学び、病棟での看護に活かすことを目的に新人が他部署に半日程度の研修に行きます。

6階病棟



片山 和将



岡部 日南子

6階病棟には、糖尿病教育や整形外科手術後の患者さんなどが入院しています。そこで、栄養管理科、手術室を見学しました。



院内留学先： 栄養管理科

① その部署を留学先に選んだ理由は？

糖尿病の方の栄養指導の見学に行きました。

6階病棟では、糖尿病教育入院の患者を受け入れています。糖尿病の治療には、主に運動療法、食事療法、薬物療法がありますが、普段病棟では見ることは出来ない食事療法について学びたいと思いました。

③ この経験をどのように活かしますか？

今回見学したことで、「個別性」を強く感じました。栄養指導に限らず、疾患に対する理解度や意欲、治療内容、検査結果等をふまえて、患者さんに合わせた関わりが必要であると学びました。今後、「個別性」という視点を大切に関わっていきたいと思います。

② 実際に院内留学をしてみてどうでしたか？

初回指導の患者さんと、何度か指導を受けたことのある患者さんの2名の方の栄養指導を見学しました。もとの食生活や栄養指導歴の違いから指導方法や指導内容が異なっていました。患者さんに合わせた話し方で指導することで理解し、実践しやすく指導されているのだと感じました。



院内留学先： 手術室

① その部署を留学先に選んだ理由は？

現在、6階病棟には、整形外科疾患をもつ患者さんが入院されています。病棟看護師として、手術後にどのようなことに気を付けて身体を動かしていくべきか、具体的に伝えることができるようになりたいと考え、整形外科手術 THA（人工骨頭挿入術）を見学しました。

② 実際に院内留学をしてみてどうでしたか？

人工骨頭を入れられているところを見て、脱臼に気を付けなければならないことが改めて理解できました。今回見学した後方アプローチでは過屈曲・内転・内旋による脱臼のリスクがありますが、実際に見学したことでそれがイメージしやすかったです。

③ この経験をどのように活かしますか？

THA（人工骨頭挿入術）手術後の患者さんに、足を組むような外旋・内旋・内転する体位に加え、後方アプローチでは正座をしたり、あぐらをかいたりといった90度以上深く屈曲する動きが危険であることを説明していきたいです。